



社団法人
茨城県栄養士会
住所 〒310-0034
水戸市緑町3-5-35
保健衛生会館内
TEL 029-228-1089
FAX 029-228-4271
http://www.ibarakiken-eiyoushikai.or.jp/

会員の皆様へ

会長 高橋 征子



最近、全国的に毎年栄養士会
員が減少しています。新会員は
増加していますが、退会者が入
会者を上回っているのです。栄
養士・管理栄養士は国家資格者
としての業務の責務と誇りや国
民の期待に応えられるだけの研
鑽と努力が必要です。
栄養士会はその一端を担うと
共に、且つ国家資格を有効に保
持するための処遇改善や国民の
健康づくり指導者としての役割
を果たすために結成されています。
処遇改善のための各種要望は、
会員数と結束力が信頼と力関係
を生み、支援者を多く得ること
ができます。
特に選挙は、会員支持投票が
重要な鍵になります。
会員数が多い団体は、支援者
が多くついて来ますが、少ない
団体は誠意をもって行動するこ
とが支援者の信頼を得る方法で
す。

栄養士会は少ない団体ですの
で会員全員の結束力をもって支
援者の信頼を得なければなりま
せん。
自分達のために力になつてく
れる候補者を大切に応援するこ
とが必要です。
先般栄養士職の現状を把握し、
会として出来る対策があれば実
行したいと思ひ職場調査をし
ました。残念ながら主旨を理解し
て頂けなかったのか、調査用紙
回収率は、約8%でした。私達
の処遇改善や職場改善に繋げた
いという思いは理解して頂けま
せんでしたが茨城県栄養士会無
料職業紹介所では、管理栄養士
初任給月額額は二十万以上、栄
養士十八万円以上、と求人票依頼
者にお願ひしています。地道な
活動ですが少しずつ改善されて
きています。新春懇談会も多く
の会員の参加により、知事等か
らは「栄養士会は会員は少ないが
結束力のある信頼の出来る会だ
ある。」という高い評価を得て
います。この信頼を維持するた
めに「栄養士会は自分達が、つ
くり、守る会である。」ことを
会員全員が再認識し、会からの
連絡には協力行動し、結束力を
高め、栄養士職の向上に一丸に
なつてがんばりましょう。

会長各種委員会活躍状況

- 平成二十二年、高橋会長が
県や関係機関より委嘱された委
員・理事等は次の通りです。
- ・茨城県農政審議会委員
 - ・うまいもんどころ食彩運動推
進協議会委員
 - ・米消費拡大推進会議米粉等
加工用米需要拡大大会委員
 - ・財農民教育協会理事
 - ・茨城県食の安全・安心委員会
委員
 - ・健康いばらき推進協議会委員
 - ・8020・6424運動推進
部会委員
 - ・財茨城県メデイカルセンター
理事
 - ・(財)茨城県メデイカルセンター
健康増進部会委員
 - ・茨城県介護予防推進委員会委員
 - ・茨城県医療費適正化計画策定
委員会委員
 - ・茨城県食育推進計画策定委員会
委員
 - ・茨城県食育支援連絡会委員
 - ・健康づくり支援店推進協議会
委員
 - ・健康いばらき21元気アップ賞
表彰選考部会委員
 - ・茨城県健康プラザ食と健康講座
企画検討会議委員
 - ・茨城県栄養健康改善学会理事長
(文責 高津戸 みち子)

連盟活動は

連盟活動は、管理栄養士・栄
養士が国民(地域住民)の健康
づくりの担い手として働くため
の環境整備や雇用拡大・雇用拡
充を目的に、栄養士会が目指す
方向性を受けて活動するもので
あり、日本栄養士連盟の支部と
しての活動と県独自の連盟活動
とがあります。

日本栄養士連盟は、国の政策
に対する要望活動が中心ではあ
りませんが、実際の連盟活動は各
都道府県が力を発揮してこそ繋
がるものであり、支部活動無く
して中央の活動はあり得ません。

したがって、各都道府県の力
量が結集してこそ、要望活動が
生きてきますし、将来を見据え
た活動となります。また、県栄
養士の将来構想を受けた県独
自の活動は、身近な積極的であ
る連盟活動であれば、県内にお
ける管理栄養士・栄養士の立ち
位置が確固たるものになり、住
民向けの真に必要とされるプロ
集団としての力量が発揮できる
のではないかと考えています。
政治も混沌としている中、皆
が元氣のなるような仕組みを考
えなければならぬ時であり、私
たちができることを国民にア
ピールすることが大切です。全
員一丸となり活動しましょう。

(文責 政安 静子)

今回は、日頃から食をさせざる栄養士活動の大切さを理解し、ご支援頂いております齋藤浩茨城県医師会長さんを訪問させて頂くことができました。医師会長という多忙な公務の中、私人としての日々の過ごし方、趣味、生活信条など話題も豊富で楽しくお話を聞きしました。

(司会 矢代あや子広報部長)

健康が第一

会長：医師会長さんは、ハードなお仕事ですので、第一に健康が求められるのかなと思います。が、今まで大きな病気をされたことはありますか。

齋藤：私は大病をしています。

茨城県医師会長

八年前で三つの癌に対して四つの大きな手術を経験しました。化学療法・外科的手術療法・放射線療法の全てのがん治療を八年間経験しています。

矢代：先生は、健康そうでそんな大病をしたようには見えませんね。



齋藤：皆さんそうおっしゃいますね。最も死に直結する大きな病気、しかもすべての苦痛を伴う治療を経験できたということは、患者さんという逆の立場が理解できたということ。天の恵みであったのかなという思いと、プロの科学者としては恥ずべきであること、だと思えますね。また、突然に亡くなる、あるいは病気で伏せるということ。個人個人の不幸じゃなくて周辺や社会に大きな影響を及ぼしますから、やはり病気をしない、病気が速やかに治す、可能であるならば病気を予防することが大変大事だと思います。とりもなおさず生きていくということは、確実に口から物を取り入れるということ、大変大事なことになると思います。しかし、「衣食足りて礼節を知る」というこ

とばがありますが、今の日本人は、足りているにも拘わらずテレビや新聞・雑誌にグルメに関する情報が異常に多いように更に食を求めており、人間性を失っているんじゃないかと懸念しております。

料理は人間独特の文化

岡：食事はどんなところに気をつけていますか。

齋藤：私は、極力万遍なく物を摂るように心掛けています。また、塩分を多めに摂っているという嫌いはありますが、日本風に味付けした煮物を好む傾向があります。鍋物も時には食しますが、ただ水を張った鍋に食物を入れて食べることは、魚介類・鶏肉・野菜類と色々な材料を入れるので、栄養素が均等にとれるという便利さはありませんが、文化的な面からいうとどうかなと思っています。女の人が料理に鍋料理が多くなってくると、認知症の始まりの危険が高くなるんですよ。(笑)

岡：日本人の料理は、一つ一つの味を大切にしたり料理ですね。その辺からすると鍋料理はだいぶ違うところがありますね。

齋藤：料理とは、人間独特の文化であり、それはやはり本能的な食欲という欲望に大きく係わってくる人間の生活の大事なことだと私は思っています。やはり、視覚・聴覚・臭覚等すべて五感に訴えて、おいしく食べ

ていきますと、消化・吸収も違ってくる。それは、まぎれもなく人間の本能を満足させると同時に文化だと思えます。それがないがしろにすることは、日本の文化あるいは我々の人間性を否定することになり大変嘆かわしいですね。その結果、家庭教育・学校教育が低下していき、これから時代を担う子どもたちはそのレベルで親になっていきます。そうすると、その家庭での教育がまた低下します。それが何代か繰り返されると、日本の今まで培ってきた食文化というものは、消滅する可能性があると思います。これは大変大きな問題ではなからうかと思えます。

人間の根幹に係わる食育

齋藤：子どもたちに対する家庭・学校・社会の食育、食事に對する教育というものをないがしろにしますと、これから日本を背負ってたつ人材の体力の維持どころではなくあらゆる意味の質の低下を招くことになり、日本の将来は危うくなります。いかに食育が人間の根幹に係わっているかということですね。



会長：そうですね。ただ、小さいうちの食育というのは、自分で選択できないというところはありますが、家庭とか親とかいゆる身近な人がきちんと教えていくことが大事なんですね。

齋藤：昨今、いろいろな学校・保育園・幼稚園で統計的のものをやらせて頂いた結果、お弁当のおかずは冷凍食品を袋から出してお弁当箱に並べるだけで手を加えないというおおかあさんが四十%を超えていたというところがございました。「お袋の味」は今「袋の味」に変化しています。(笑) また、核家族化が進んでいる中、前世代、前々世代からの知恵や味が消えていっています。ですから、やはり学校栄養士がPTAの研修にもっともっと参画してけると家庭の食育というものに波及していくのではないのでしょうか。また、学校に出たこない保護者の家庭の食育が問題ですね。お正月の生活を一年通じて行われているようなだらしのない家庭は、やはり学校教育の一環でその家庭にアプローチしなければならぬ。核家族の場合は、地域の横の連携もなく社会的な教育もうまくいかないというようなことが起こってくるので、学校が中心になって社会にもアプローチすることが必要だと思っています。高い教養を求めているのではなく、きちんとしたごくごく当たり前の生活がでないということが根幹的に関

表敬訪問

齋藤 浩

齋藤：学生時代は選手で、今でも指導者です。それから、楚々として山林に生えている春蘭が好きです。

会長：春蘭は小さい花ですが凛とした感じの花ですね。

齋藤：じじくさいといわれますが、なぜか高校時代から好きです。後は、乱読です。本があるとなんかでもむちゃくちゃに読みます。というのは、本の重さ・香り・インクの匂い、文字の並び・古い初刊本などは字の絵画的な並び方など本の持つ魔力があるんですね。だからIパッドや携帯電話で読む小説は、作品とは思いたくないですね。初刊本が本棚に並んでいると見ただけで落ち着きますね。

会長：そうですね、私たちは本棚の中で生活しましたからね。

「和して同ぜず」

矢代：生活の中の信条といいますが、自分なりにこういう生き方をしていくということはないですか。

齋藤：なるべく対等に仲間にする、仲間をたくさん作っていく、敵を作らないというのが信条ですね。敵を作るといふことは、非常に嫌なことですし、傷つけ合うことが多いですから。したがって、中国のことばの「和して同ぜず」というように、敵を作らず和をもちますが、同調はしません。自分のポリシーがありますから、自分のポリシーを曲げることはしませんね。

局長：趣味はどんなものをお持ちですか。
齋藤：趣味は、根っからのラグビーですから、ラグビーです。
局長：やはりそうですね。何かスポーツをやつたらしやるんじゃないかなあと思っていました。

局長：リーダーとしてはすばらしい信条ですね。

齋藤：そうですね。皆さん、茨城県医師会は政治に強い団体、という印象がありますが、医師会の活動は、都道府県医師会だつたら都道府県民の、日本医師会だつたら日本人の命と健康を守る学術団体だ、という原点を忘れちゃいけないと思つています。私は、原点返りを原中先生(日本医師会長から引き継いでやつているわけです)。

従来医師会長というのは医師連盟という政治団体の委員長を兼ねているんですが、私は委員長をはずして顧問として見ているだけです。医師会そのものは政治団体として存在すべきでないということ皆さん、よく認識されていらないですね。



会長：原中先生は日本医師会の会長として活躍できる人なんだというそういう応援体制を茨城県医師会がまとめられたのは、すばらしいなと思つています。

齋藤：ありがとうございます。茨城県医師会は、地方の小さな県でありながら、大都市を持つ東京と京都に勝つことは、大変でしたよ。

会長：すばらしい動きだつたと思つています。みんなの気持ちをひとつにまとめられたということですね。

齋藤：旧日本医師会は自民党一辺倒でしたが、政権交代と同時に原中会長に変わつて民主一辺倒と見られています。本来医師会は、どちらにも属するものではないのが正しいと私は思っています。日本医師会は政党に偏ることなく、医師の衆参議員全員と連携して、医療・介護・福祉政策に提言できる組織変革を原中日本医師会はめざしております。

会員へエール

会長：栄養士の職場はすごく種類が多いんですね。やつていることは、食を通じた健康づくりだと思つていますが、そういう中でぜひ会員を元氣付けて頂けるようなエールをいただければ有難いんです。

齋藤：例えば、企業には産業医、学校には学校医がおりまして企業や子どもたちの健康管理をまかされているわけですが、当然栄養士が絡んできますね。ところが、栄養のほうは栄養士だけ、検診の結果をフォローして健康指導するのはそこところとまとまっているというように、横の

情報の共有がないんですよ。それから得られた情報がどうフィードバックされるかという問題もあるんですね。ですから、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・栄養士など健康に係わる全ての職種のものが、情報を共有でき、得られた情報をそれぞれの職種にフィードバックできるようなシステム、連携と協調のできるシステムを医師会としても構成していきたい、ひとつの事業の一環として考えていきたいと思つています。そのためにも、栄養士の皆様方も切磋琢磨して、お声かけを我々のほうにしたいだけだと思います。

会長：ありがとうございます。



「タマゴフリン」
茨城県産牛乳と卵で作った
やさしいあじわい



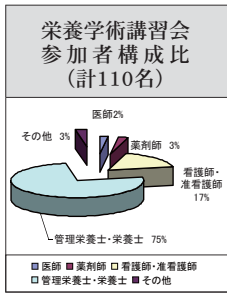
代表取締役社長 海老沢 文範
茨城県石岡市東田中字新田1187-1
TEL0299-26-8111(代) FAX0299-26-5411

二月二十三日(水)茨城県立健康プラザにて、茨城県栄養士会ならびに茨城県病院協会主催の茨城県栄養学術講習会が開催されました。今回の講習会は、多職種協働によるチーム医療の役割と現状の相互理解やNST担当者への資質向上を図ることを目的として、ひたひたなか総合病院栄養室長柴垣泰郎先生の基調講演および筑波大学附属病院消化器外科病院教授寺島秀夫先生の教育講演の後、「NSTに取り込む多職種の現状」と題して、柴垣先生を座長に、講演いただいた寺島先生のほか、現在、県内各病院のNSTで活躍している薬剤師の鈴木敬久先生、看護師の沼田博葵先生、管理栄養士の秋野早苗先生を交えたパネルディスカッションが行われました。柴垣先生の基調講演では、「チーム医療の役割と課題」というテーマについて、まず最初に、どのようなチームが良いチームであるのか?をサッカーアジアカップ杯優勝を例にあげてわかりやすく説明いただき、後半では幾つかのエビデンスレベルに基づいた研究論文からNSTの有効性についてのご講演がありました。次の寺島先生の教育講演では、「目指せ、"EBN"」と題して、なぜ栄養療法はエビデンスをつくるのが難しいのか?何が解決されなければならないのか?を豊富な臨床のご経験や知識から具体的に

茨城栄養学術講習会

アンケートでいただいたご意見 (多数のもの)

- 幅広く実例を挙げての講義で分かりやすかった。
- 症例を挙げてのパネルディスカッションは、他職種の貴重な意見が聴け、解かり易く大変参考になった。
- 話が難しく感じた。自分の勉強不足を感じた。自分自身の強さを認めた。
- 今後このような勉強会を期待します。



にかつ熱く語っていただきました。パネルディスカッションでは、まず初めに寺島先生から、私たちが日ごろ頭を悩ませている必要エネルギーの算出方法について、フロアやパネリストに質問が投げかけられ、早速、自分もいつかどうしていいか?と自問自答するとともに、多施設での回答を聞く事ができ、大変参考になりました。本題のパネルディスカッションでは、実際の臨床の現場でも遭遇するような悩める症例の提示があり、自分も架空のNSTカンファレンスに参加しているつもりで実際に栄養プランを立てながら、パネリストである他職種の先生方の意見を聴いて、チーム医療の進め方を学ぶことが出来ました。

(文責 加藤 かな江)

実践保健指導・栄養指導 ブラッシュアップセミナー

平成二十二年十月二十五日、茨城県立健康プラザにおいて、実践保健指導・栄養指導ブラッシュアップセミナーが開催されました。

基調講演は、あいち健康の森健康科学総合センター副センター長兼健康開発部長兼あいち介護予防支援センター長津下一代先生に「行動変容につながるアプローチ法」初回面接、継続支援とそのプロセス」と題し、講演いただきました。平成二十二年四月よりスタートした特定健診特定保健指導において、保険者は、健診実施率・保健指導実施率・メタボリックシンドローム・予備軍改善率について評価されています。津下先生の研究により、六か月間の体重の変化率と検査値の変化において、収縮期血圧・拡張期血圧・トリグリセライド・HDLコレステロール・空腹時血糖・HbA1cいずれにおいても現体重の四%減少で有意差がみとめられています。

講演に続き、ロールプレイングが行われました。対象者・支援者・傍聴者の三人一組となり、行動ステージごとの動機付けの仕方、メタボリックシンドロームの概念を活用した保健指導について体験しました。保健指導対象者の心の声に耳を傾け、一

見同じように改善意欲に乏しい無関心期の場合でも、その人の思いを語ってもらい、無関心な姿勢を示す原因を考え、対象者に合った行動目標の設定・継続支援を行う事が重要という津下先生のことばが印象的でした。

最後に、株式会社カルピス発酵研究所所長菅谷敦廣先生に、「栄養食事指導における特定保健用食品の活用について」トクホの基礎知識と有用性」と題し、最新情報の提供をいただきました。

(文責 杉山 美智子)

管理栄養士等 介護予防研修 ―介護予防における 栄養改善推進に係る モデル事業―

介護予防に取り組んでいくための人材を育成するため、全国七ヶ所で研修会が実施されている中、今回茨城県で開催されるというところで出席してきました。

日本栄養士会専務理事の迫和子先生による「介護予防栄養改善の進め方」「介護保険制度と栄養改善サービスの概要」の講演がありました。平成十八年度

れた介護予防の一つとして期待されている栄養改善サービスの実施率は、非常に低い状況にあるということでした。しかし、高齢化社会が急速に進んでいる現在、介護予防の取り組みは、とても重要になってきました。中でも栄養改善サービスは、本来であれば一番に取り組まなければならないことです。特に高齢者の低栄養は、深刻な問題です。低栄養は、筋力の低下や免疫力の低下を招き、その結果寝たきりや感染症といった高齢者のQOL低下の大きな原因となります。実践報告として実際に活動されている先生方から、栄養改善の取り組みについての講演も頂き、栄養管理が必要な高齢者をスクリーニングし、早期改善に努めることの重要性と低栄養である方、または可能性のある方は「痩せ」の方のみではないので、利用者をよく観察し、一人でもいいため栄養改善に取り組んで欲しいとのことでした。

低栄養状態の改善は、本人や家族、介護支援専門員、皆で考えていかなければならない課題だと思えます。そのためには、情報の共有化と相互の理解を深め、管理栄養士も自らの資質向上に努める必要があります。高齢者の生活機能の維持、向上を図りいきいきとした生活を送れるよう、利用者の笑顔を想像しながら私達、管理栄養士のできる食の支援で、介護予防に努めていきたいと思います。

(文責 山崎 真美子)

第九回茨城県栄養健康改善学会 第十二回茨城県健康づくり提唱のいよいよ

去る二月十四日茨城キリスト教大学において第九回茨城県栄養健康改善学会が開催されました。午前中は第四分科会に分かれ二十六題の発表がなされ、活発な質疑応答がされました。

又別会場では二十三課題の示説発表がなされ、発表時には、ポスターを前に活発な意見交換が行われておりました。午後からは川上美智子学会会長の開会挨拶があり、橋本昌知事から来賓挨拶をいただきました。

その後基調講演が行われ、日本臨床栄養学会理事長である板倉弘重先生からは『ヒトの進化とメタボリックシンドローム』という題でヒトが環境に順応して生きてきたこと、環境に応じて体の造りが変化し生き延びてきた結果ビタミンCの体内合成ができなくなったこと、ミトコンドリアと共生関係にあること、活性酸素によって有害菌やウイルスに対応してきた等、現在の肥満発症もヒトが生きて延びるための利点がある現在の食生活では、欠点となっていることなど進化の過程での変化をわかりやすくお話しいただきました。

又その後教育講演としてヤクルト本社の農学博士三毛明人先生から『ビフィズス菌は健康のバロメーター』健康長寿を求めて」という題で腸内細菌と肥満との関係やビフィズス菌が医療現場使用され潰瘍性大腸炎の減少に繋がっていること、腸内の有用菌数が健康のバロメーターであるなどが紹介されました。

さて学会がこのような形になって九年これから十年目に入ります。皆様の参加により、これが継続できたことは、大変嬉しいことです。栄養士・管理栄養士は、今後も日々研鑽をしていかななくては、社会のニーズに答えられなくなります。自信を持って仕事をしていく為にも互いの仕事を発表し評価を受けることや学生が学業の成果を発表することは、大切であると思っております。又来年の発表会に向けて皆様のご精進に期待したいと思います。

(文責 入江 三弥子)



発表者紹介 (栄養士会員)

口演発表

- 第1分科会 【公衆栄養・健康増進】**
ストレスがHbA1Cに及ぼす影響の調査・検討
太田 由香
- 第2分科会 【臨床栄養】**
透析患者の血清Ca、Pi値を栄養管理指導により適正値領域に保つことは可能か
(透析患者100例の分析による) 前田 昭子
外来CKD患者に対する減塩指導の効果の検討
中山 真由美
右下肢切断術後の食欲不振患者に対する栄養管理
～糖尿病性腎症の1例～ 武田 久美子
創傷治癒に適したHMB配合清涼飲料「アバンド」の使用経験
高安 志ず子
乳児院における栄養管理の現状と課題
野上 智史
栄養療法を含め治療に苦慮した5歳発症潰瘍性大腸炎の1症例
加藤 かな江
妊娠糖尿病の食事療法
～栄養指導・分割食の取り組み～ 三原 朋子
当院のNSTアセスメントの現状と課題
俵 佐代子

- 第3分科会 【給食・食事管理】**
給食経営管理論実習における食の安心・安全について (第2報)
地場産物の活用と食材料マネジメント
白子 みゆき
食形態を見直して食べる喜びを取り戻そう
～なめらか食の導入～ 豊田 めぐみ
食事をおいしく食べていただくための取り組み
志賀 佑美
安全に、おいしく食べていただくための「食のケア」・「口腔ケア」
石川 真由美
バイキング給食の試み
加藤 れい
高齢者の栄養管理
宮本 順子
学校全体で取り組む食物アレルギーへの対応
會澤 千恵子
- 第4分科会 【食生活・食環境、食品調理】**
茨城県南地域の家庭における年中行事の行事食の現状
金谷 由希
当院における介護予防事業の実際
樋田 葉子
0～5歳児の家庭における食事状況の調査
久保田 陽子

示説発表

- 【給食・食事管理、臨床栄養】**
特定給食施設運営改善に関する取り組み
大久保 美保
特定給食施設におけるドライシステム導入効果の検討 (第2報)
白石 千香子
ソフト食の導入と取り組み
鈴木 宏美
嚥下食に対する栄養士の取り組み
～10年間の変化～ 小園井 裕佳
「妊婦の栄養指導における体格区分別エネルギー付加量」について
向出 利奈子
- 【食生活・食環境、食品調理】**
食農教育の取り組み
～農業体験型実習と調理実習の連携～ 田村 恵理
- 【公衆栄養・健康増進】**
医療系学生におけるライフスタイル、食習慣および基礎体力
江面 恵子
医療系学生における食習慣と栄養素摂取状況
北林 萌子
女子大生の身体・活動状況と食品群別摂取状況に関する検討
野口 祥子

賛助会員の活躍一覧

| | | |
|---------|----------|------|
| ◎ 商品展示 | 総会 | 24 社 |
| | 栄養健康改善学会 | 16 社 |
| ◎ 商品協力 | 新春懇談会 | 45 社 |
| ◎ 広報ちらし | | 4 社 |
| ◎ 広告掲載 | 総会資料 | 3 社 |
| | 栄養茨城 | 2 社 |
| | 会員名簿 | 5 社 |

Yakult



ヤクルト 400

ヤクルト400に比べ
甘さ・カロリー
ひかえめ
ヤクルト 400LT

お申込み・お問合せは 0120-11-8960

水戸ヤクルト販売(株) / 水戸市谷津町1-35 〒311-4164 ☎029 (251) 8960
古河ヤクルト販売(株) / 古河市南町1-62 〒306-0015 ☎0280 (31) 8960
千葉県ヤクルト販売(株) / 習志野市茜浜2-5-2 〒275-0024 ☎047 (452) 8960
いわきヤクルト販売(株) / いわき市小名浜林城字向田2-1 〒971-8122 ☎0246 (58) 8960

受賞おめでとう

永年の栄養士活動が認められ、平成二十二年度表彰された方々をお知らせします。

茨城県功績者賞・大臣賞 知事賞・保健福祉部長賞

茨城県功績者表彰受賞者



常磐大学人間科学部
健康栄養学科
中原 經子

栄養関係功労者
厚生労働大臣表彰受賞者



茨城県立中央病院
岡田 文江



鯉淵学園
農業栄養専門学校
入江 三弥子



水戸市保健センター
櫻井 みな子

栄養関係功労者
学校給食文部科学大臣
表彰受賞者

〔学校〕

ひたちなか市立長堀小学校
潮来市立潮来第一中学校

茨城県知事感謝状受賞者

・第二十四回通常総会

茨城西南医療センター病院

高安 志ず子
小美玉市小川保健相談センター

沼田 すみ子
べんてる K.K茨城工場

根本 幸子
・県民健康づくり表彰式

特別養護老人ホームさつき荘
小葉 ひさ子

筑西市市民病院
大里 登紀子

(株)日京クリエイト
加藤 香代子

茨城県保健福祉部長
感謝状受賞者

・第二十四回通常総会
水戸済生会総合病院

飯島 直栄

下妻市保健センター

内田 知子
ホスピタル坂東

大久保 佳子
鹿島労災病院

小沼 和子
友愛記念病院

松野 孝
・県民健康づくり表彰式

八千代病院
秋庭 徳子

土浦協同病院
仲長 富男

川崎胃腸科肛門科病院
吉成 純子

(株)日京クリエイト
木名瀬 奈美路

表彰について

表彰は、それぞれの表彰基準に基づき、段階を経て上位表彰につないでいきます。

茨城県栄養士会長表彰
(正会員として二十年在籍)

日本栄養士会長表彰
(正会員として二十五年在籍)

茨城県保健福祉部長感謝状表彰
(五年以上の実践活動、四十歳以上)

茨城県知事感謝状表彰
(十年以上の実践活動、五十歳以上、保健福祉部長賞を受けてから三年以上経過している者)

栄養関係功労者厚生労働大臣表彰
(原則、都道府県知事の表彰を受けたことがあること)

会員増対策

には、日々の業務に役立つ最新の情報や、実践事例、資料等が満載です。

栄養士会は、皆様の会費で運営されています。社会のニーズに答え「茨城県の健康づくりは県栄養士会から」と言ってもらえる会になるために、ぜひ、栄養士・管理栄養士として働いているすべての方の入会を願っています。また、退職なされる会員の皆様も継続加入をして「生涯栄養士」として活躍をお願いいたします。

(文責 山崎 富江)

会費・栄養会館 運営拠出金納入の お願い

会員の皆様には、今年度も本会の事業等につきまして、ご理解、ご協力をいただきましてありがとうございます。また、平成二十三年度の会費及び栄養会館運営拠出金の納入の時期になりました。

栄養士会は、栄養・食生活指導の専門職能団体として職種の社会的位置づけや会員のスキルアップ対策などの活動を行っています。

しかし、経済不況による職場規模の縮小や定年退職等の理由による退会者が増え、また、新

(文責 高津戸 みち子)

(社)茨城県栄養士会が勤務する給食施設について報告

本会会員が勤務する給食施設についてのアンケート調査の結果について報告いたします。このアンケート調査は、会員が勤務する給食施設の現状を把握し、今後の会員対策及び処遇改善等に役立てるために、事業所・病院・福祉施設の五九〇施設について郵送によるアンケートを実施したものです。その結果、四十八施設から回答が得られました。

調査の結果は、表1から表4のとおりです。

給食費については、朝食の最低額が病院・児童養護施設の百五十円、昼食・夕食の最低額は、児童養護施設の百七十五円で、三食とも最高額は、事業所でした。

給食業務形態をみると、直営の施設が十三施設、委託の施設が三十四施設でした。委託内容については、全面委託・給食業務全般委託が半分以上を占めています。調理・運搬・洗浄や食器洗浄のみ等の一部委託も見ら

表1 (社)茨城県栄養士会員が勤務する給食施設について集計結果

| 施設の種類 | 施設数 | 給食費(円/食) | | | 給食業務形態(施設数) | | 委託管理栄養士 | | 給与(初任給・円) | | 課(科)制 | |
|-----------|-----|----------|---------|---------|-------------|----|---------|-----|-----------------|-----------------|-------|--------|
| | | 朝 | 昼 | 夕 | 直営 | 委託 | 管理栄養士 | 栄養士 | 管理栄養士 | 栄養士 | 整っている | 整っていない |
| 学校 | 1 | - | 450 | - | 0 | 1 | 0 | 1 | - | - | 1 | 0 |
| 事業所 | 3 | 200~400 | 300~500 | 500~580 | 0 | 3 | 0 | 3 | - | - | 2 | 1 |
| 1日150食以下 | 7 | 150~310 | 210~470 | 210~470 | 2 | 5 | 1~2 | 1~2 | 180,800 | 170,800 | 3 | 4 |
| 病院 | 1 | 160 | 230 | 230 | 0 | 1 | 0 | 1 | - | - | 0 | 1 |
| 特別養護老人ホーム | 1 | 150 | 175 | 175 | 1 | 0 | 0 | 1 | 150,300~160,800 | - | 0 | 1 |
| 児童養護施設 | 1 | - | 180 | - | 0 | 1 | 0 | 1 | - | - | 0 | 1 |
| 保育所 | 1 | - | - | - | 0 | 1 | 0 | 1 | - | - | 0 | 1 |
| 小計 | 14 | - | - | - | 3 | 11 | - | - | - | - | 6 | 8 |
| 1日150食以上 | 1 | 345 | 345 | 345 | 0 | 1 | 1 | 3 | 142,000 | - | - | - |
| 学校(寮) | 7 | 212 | 300~400 | 371 | 0 | 7 | 0~1 | 0~1 | 198,000 | 162,000 | 7 | 0 |
| 事業所 | 17 | 150~320 | 230~450 | 230~450 | 6 | 11 | 0~6 | 0~6 | 100,000~200,400 | 150,000~172,800 | 15 | 2 |
| 病院 | 5 | - | - | - | 3 | 2 | 1 | 0~2 | 142,500~200,000 | 146,500~152,800 | 2 | 2 |
| 特別養護老人ホーム | 3 | - | - | - | 1 | 2 | 0~2 | 1~2 | 162,000 | 150,000 | 1 | 1 |
| 児童養護施設 | 3 | - | - | - | 10 | 23 | - | - | - | - | 25 | 5 |
| 小計 | 33 | - | - | - | 13 | 34 | - | - | - | - | 31 | 13 |
| 合計 | 47 | - | - | - | 13 | 34 | - | - | - | - | 31 | 13 |

れました。栄養士の配置については、食数の少ない施設では、病院以外に管理栄養士の配置がなく、栄養士のみでの配置でした。また、食数の多い施設でも管理栄養士の配置のない事業所・病院・介護老人保健施設が見られました。新卒採用の初任給については、ほとんどの施設において回答がありませんでした。しかし、回答のあった中では、管理栄養士は最低額が十万円から最高額二十万四五百円と施設により大きな差がありました。課長・係長などの課(科)制は、食数の多い施設ほど整っている傾向でした。少ない回答結果からも管理栄養士の配置や新卒採用の初任給

十二月十七日(金) 県民文化センター(水戸市)でいばらき食育推進大会を開催し、約千五百名の方々に参加いただきました。大会初の試みとして「いばらき健康づくり支援店」七社による企画弁当を販売。約六百キロカロリー、塩分3g未満、野菜百五十g以上使用と厳しいハードルであったにも関わらず、味・見栄え・値段三拍子揃った弁当が完成し、全ての弁当が早々に完売しました。購入者からは「地元にもこんな弁当が増えてほしい」という声が多数寄せられました。また食生活改善推進員

いばらき食育推進大会

との連携により、高血圧・高血糖予防の展示と体験コーナーを実施。〇.六%塩分の適塩みそ汁試飲は長蛇の列となりました。パネルディスプレイは「食育で変えよういばらきの未来」をテーマに、茨城大学中島紀一教授、下妻市教育委員会青柳正美教育長、茨城県農業経営士協会山崎正志会長、茨城県保健福祉部青山充次長兼保健予防課長が出演、講演は横浜国立大学金子佳代子教授から「食をコーディネートする」と題してお話いただきました。次回もぜひご参加ください。

(文責 駒橋 玲子)

(文責 佐藤 満子)

表2 委託内容について

| 委託内容 | 1日150食以下 | | 合計 |
|--------------|--------------------|----------|----|
| | 1日100食以上又は1日150食以下 | 1日250食以上 | |
| 全面委託 | 4 | 4 | 8 |
| 給食業務全般 | 3 | 8 | 11 |
| 調理業務全般 | 1 | 5 | 6 |
| 献立作成・調理・盛り付け | 1 | 0 | 1 |
| 調理・運搬・洗浄 | 2 | 2 | 4 |
| 調理補助 | 0 | 1 | 1 |
| 食器洗浄 | 0 | 3 | 3 |
| 合計 | 11 | 23 | 34 |

(文責 高津戸 みち子)

表4 県内の委託業者例

| 給食数 | 給食費 | 給与(初任給) | 課(科)制 |
|------------|-------|---|-----------------|
| 110,000食/日 | 契約による | 210,000円(大学院卒) 198,000円(大学卒) 162,000円(短大卒) 156,000円(高校卒) | 整っている(原簿数にもなれる) |

表3 栄養士以外の職員配置数

| 施設の種類 | 調理師(人)(嘱託、パート等含む) | |
|-----------|-------------------|----------|
| | 1日150食以下 | 1日250食以上 |
| 学校 | 0 | 5 |
| 1日150食以下 | 0~1 | 0~3 |
| 病院 | 0~2 | 0~4 |
| 特別養護老人ホーム | 1 | 6 |
| 児童養護施設 | 0 | 5 |
| 保育所 | 2 | 0 |
| 1日150食以上 | 10 | 0 |
| 学校(寮) | 0~2 | 8~14 |
| 事業所 | 0~6 | 2~22 |
| 病院 | 2~6 | 1~7 |
| 特別養護老人ホーム | 2~3 | 6~14 |
| 介護老人保健施設 | | |

管理栄養士国家試験 対策特別講座

昨年十二月十二日、二十三日、二十五日の三日間、茨城県栄養士会事務所において、栄養士会主催の「管理栄養士国家試験対策特別講座」が開催されました。この特別講座には会員、非会員併せて二十二名の方が参加されました。熱心に耳を傾け、ノートを取る姿から管理栄養士へのステップアップの意欲の大きさが伺えました。

今回の特別講座では国家試験対策専門講師の植田先生に講師を依頼し、初回の講義では基礎的部分の理解を深めていただくため二十四回国家試験問題の解説を中心に行っていただき二日目以降は、臨床栄養を中心に他の科目とも関連づけ理解出来るような内容で講義をしていただきました。その結果、参加者より「三日間では少ないので日数を増やして欲しい」「もう少し早い時期にも開いて欲しい」「講義が解り易い」等々好評価の意見を数多くいただきました。初日に高橋会長より参加者に向けてエールが贈られ勇気づけられたので試験当日には頑張りますとの声にも応えるべく、栄養士会は一人でも多くの管理栄養士を育てることが大きな使命の一つです。今後も継続して特別講座を実施していく予定です。

(文責 佐藤 満子)

活動状況

健康外食 アドバイザー

| 事業名 | 活動者数 | 活動回数 |
|---------------------|------|--------|
| いばらき健康づくり 支援店づくり | 6名 | 年間を通じて |
| とりせん食育体験 学習事業 | 1名 | 5回 |
| エコス食育体験 学習事業 | 1名 | 1回 |
| カスミ食育体験 学習事業 | 14名 | 51回 |

健康食品の 知識普及員

| 普及員 (計 689名) | 活動回数 | 対象人数 |
|-----------------|-------|-------|
| 17年度 | 250回 | 4625名 |
| 18年度 | 2533回 | 7424名 |
| 19年度 | 1638回 | 7514名 |
| 20年度 | 1797回 | 7892名 |
| 21年度 | 870回 | 7248名 |
| 22年度 | 集計中 | |

特定保健指導の実施状況

特定健診・特定保健指導がスタートして早三年目、茨城県栄養士会では県内四箇所の地区リーダーを中心に、特定保健指導講習を修了した会員により、これまで着々と実績を積み上げてまいりました。(別表参照)

特定保健指導に対する各保険機関のこれ迄の取り組み状況にはかなり温度差があり、また受診者についても特定健診の受診率・特定保健指導の実施率の低さから鑑みると、まだまだ厳しい状況であることは否めません。そのような中、先日ある保険

機関から当会に対し、特定保健指導従事者人件費がこれまでの半分という内容の提示がありました。契約には至らなかったものの、大変困惑をいたしました。

茨城県栄養士会が特定保健指導の業務提携をする上では、会員の適正な賃金・報酬レベルの維持・向上を常に考慮するといふ基本的な姿勢を崩すわけにはいきません。現在契約中の保険機関からの依頼に対しては、然るべき報酬条件を組み入れた内容で納得を頂いております。今後も当会における会員の賃

役員改選について

二十三年度は、(社)茨城県栄養士会と日本栄養士連盟茨城県支部の役員改選の年となります。左記の日程で進める予定でおります。

- ・選挙管理委員任命 一月二十一日(金)
 - ・公示 三月二十二日(火)
 - ・立候補者締切 四月五日(火)
 - ・投票 五月七日(土)
 - ・十一日(水)
 - ・総会承認 五月二十六日(木)
- 会員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

事務局 新職員の あいさつ

二十二年四月から茨城県栄養士会事務局でお世話になり、まもなく一年を迎えます。初めはとまどうこともありましたが、高橋会長はじめ、大籠事務局長、事務局の先輩方の温かい指導のおかげで、失敗もありますが元気に働くことができました。

この一年間、各研修会・学会と様々な研修やイベントを担当することが多かったです。反省点や改善点を生かし、今後の業務に役立て栄養士会の発展のため尽力したいと思っております。どうぞよろしく願っています。(文責 諸沢 志野)

事務局だより

茨城県栄養士会から会員様へお送りする文書は年間三〜四回程あります。毎回、研修会をはじめとした各種ご案内等を迅速かつ確実に皆様のお手元へと届く様掛けしております。

送付先は勤務先・ご自宅宛等夫々ですが、残念なことに、転居・退職等の理由により再度文書発送となるケースが毎回数多くあります。会員様から集めた大切な会費を有効に活用していくためにもご理解を戴いた上で、転居や転職などの異動がありました際には速やかに事務局宛ご連絡を頂きますようお願いいたします。(文責 鈴木 修弥)

編集後記

FLASH H九号をお届けいたします。原稿をお寄せくださいました皆様ご協力ありがとうございました。今年度の干支は「辛卯」。卯はうさぎで素早い動きとジャンプ力が特技のうさぎは、良い方向に進む躍動感ある生き物で、卯年は進歩のある年とされているようです。

四月の異称「卯月」は卯の花月ともいいます。卯の花【植物】

は、ウツギの花で茎が空洞なので空木と書きますが、花が旧暦四月に咲くため「卯の花」と呼ぶように、また、卯の花【食べもの】おからは、豆腐の絞りを殻ですが「から」が「空」に通じ、空木の花も白いので「卯の花」と呼ぶようになったそうです。干支からおからに話が飛んでしまいました。近年の栄養学も飛躍的に進歩しております。会員の皆様には、これからも新しい情報やご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。(文責 福地 久美子)